

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム陽光園	評価実施年月日	平成21年1月6日
評価実施構成員氏名	鳴海孝一 中森悠太 対馬清美 坂口照美 竹中里未 木田涼子 村井はるみ 住吉満江 佐藤千代子 長谷川美津子		
記録者氏名	管理者 鳴海孝一	記録年月日	平成21年1月17日

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>利用者がその人らしく暮していけるよう事業所独自の理念を作りあげている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を誰もが見える場所に何箇所も貼っており、職員間で理念を共有し理念に基づいたケアを行うため毎日のミーティングや職員会議で周知し、実践に向けた取り組みを行っている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>現在の理念は、ホーム内での入居者と職員を念頭に置いたものとなっております。家族の皆様には理解していただいていると思っています。ご近所の方々には日常の付き合いから理解して頂いていると思います。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>日頃の挨拶、節目の挨拶等近隣と顔なじみの関係を作っており、また近隣の草刈や除雪の手伝いをし日常的なつきあいができるよう努めている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内のお祭りや、地域の方の訪問や入居者との散歩の際に挨拶をするなど交流することに努めている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>近隣の高齢者宅の草刈や除雪の手伝いをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>管理者及び全職員で自己評価を行うことで意義を理解し、改善すべき点は速やかに具体的な改善策を考え取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>平成19年12月現在、委員の選考等について準備中です。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>介護保険制度開始前より町役場とは良好な関係を構築しており、常に行き来をし運営等についても話し合いをしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>現在、利用している方がいませんので、活用支援はありませんが内部研修会で取上げ勉強する機会を設け、いつでも相談があれば対応できるようにしています。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>北海道発行のパンフレットや虐待事例について職員会議で取り上げ防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時や解約時には責任者が入居者や家族に納得していただけるよう丁寧に説明し、納得していただいたうえで書面にて署名及び捺印をしていただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者が気軽に職員に意見や不満、苦情が言える関係、雰囲気作りを行っている。</p>	<p>○</p>	<p>今のところ苦情はありませんが意見や不満が出た場合は、職員全員で話し合いをし、速やかに対応できるようにしていきたい。</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>平成19年12月に初めて広報誌を発行し暮らしぶりを伝えるとともに、毎月の請求書送付時に金銭管理台帳をコピーし送付している。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>今のところ、ご家族からの苦情や不満を言われたことは無いが、担当者も明確で重要事項に記載されており、また施設内に掲示している。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員会議や朝のミーティングの場で意見や提案を受けている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>急な出勤や必要な時間帯に職員が確保できるように、日頃から職員に理解を求め話しをしているので、必要となった時には出勤できるような体制になっている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の異動や退職については、利用者の精神的ダメージが強いため十分に注意をしている。また新人を採用した場合は、顔なじみになるまで日勤を中心とした勤務体制をしいている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	必要と思われる外部研修会には、勤務として参加させ、内部研修会を実施している	○	内部研修会の充実を図りたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	南北海道連絡協議会に入会しており、研修会や交流する機会がありサービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。また、近隣の同業者とは、電話連絡や相互に訪問をしている。	○	相互訪問を充実し、質の向上を図って生きたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	業務の無理・無駄をなくすよう勤務体制を整えている。相談や悩み事を打ち明けられることができるよう日常から気軽に話ができるようにしている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	向上心をもって働けるよう毎年の定期昇給をし働く喜びが持てるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。	入居前に本人と面談を行い顔なじみの関係をつくり話を聞き、入居前に施設見学をしていただいて不安の軽減を図っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。	入居前に家族とも面談をし、お話をする機会を設けたり、いつでも電話等で相談することができる体制をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の思いや状況を確認し、入居までに至るまでの期間で早急に対応が必要であれば可能な限り、他のサービス事業者と連携をし対応している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に見学に来て頂くことで、ホームの雰囲気を知っていただいたり、見学に来られないときには、職員が出向き顔なじみの関係を作るように心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	介護する側、される側という関係ではなく、ホームにおいて共に生活をし暮らしを支えることを実践している。歌の好きな方と一緒に歌ったり、踊ったりと、その時々を大切に職員が利用者に共感することで笑ったり、怒られたり、泣いたり感情豊かに過ごせるようにしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来訪された家族に利用者の近況をお話をしたり、またご家族より昔の話を聞くこともあり、そういう関係の中で一緒に本人を支えていく関係を築くようにしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	より良い関係を築いていくために、長い時間を要する事もあり個々のケースに応じて支援をしている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ドライブがてら故郷訪問をしご近所の方と会話をしたり、また馴染みのご近所の方が来訪してくれたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日常の利用者同士の会話や交流から孤立している利用者がいないか、関係が悪くなっていないかなどの把握に努めています。また、孤立しそうな利用者や関係が悪くなりそうな時は職員が仲介となり話を聞き速やかに対応している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現在、解約や退居された入居者及び家族については、お会いすれば挨拶を交わしたり年賀状を送付する程度で交流はあまりない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関りの中で、声をかけ話を聞き把握に努めながら、日々の生活は全てケース記録に記載しその人らしい主体性を探っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、ご家族の方やご本人から話を聞き、入居後も日々の会話の中から話を聞き把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一日一日の心身の状態を良く観察し把握しながら総合的なケアを行っている。いつもと違うと感じるときは、職員で話し合い、主治医に連絡をとったり看護婦へ連絡をとり、その都度、速やかに対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画作成に当たり、ケア担当者と計画作成者が本人・家族の意向を十分に理解し介護計画に反映している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	変化が生じた時には介護日誌や連絡帳に記載し職員が情報を共有して、本人やご家族に要望を聞き、期間が終わる前に見直しを行い必要な場合は、介護支援専門員の下で新たな介護サービス計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別台帳を作成し個々の行動や変化、気の付いた点を全て記録している。連絡帳をにも記載し情報の共有を計りその方が希望することであれば、介護計画にも取り入れている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族の希望により定期的な病院受診や家族の送迎、気が向いたときのドライブ等に柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	施設内に町民の文化団体の協力を得て写真を展示していただいている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現状は、他のサービスを受ける機会があまりない。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現状では、本人や家族の意向もなく協働していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療が受けられるように支援をしている。</p>	<p>必要により週に一度、特養ホームに往診の際に診て頂き、その後さらに必要により病院受診をしている。ちょっとしたことは電話により看護職と連絡をとり支援している。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>小さな町で病院の数も少なく、認知症に関する専門医もおらず、治療を受けられる病院は遠方であり限られている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>本体である特養ホームに看護師が2名おり、また協力医療機関の看護師と連携が取れており、気軽に日常の健康管理について相談することができ指示や助言に利用者の健康管理に活用している。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時には早期退院を目指し相談員などと話し合い、入院先の医療機関と連携をとり情報交換や職員も出来る限りお見舞いや相談に努めている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化や終末期については、入居の時点でご家族を交えた話し合いを行い意向を尊重している。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>主治医との連携により、ご本人が望む生活の維持に積極的に取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p> <p>グループホームに入居の際は、事前に見学をしていただいたり、職員が何度かお会いし馴染みの関係づくりをしたり、自宅へ退居する際には、ご家族へ入居時の生活状態について話し合い情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p> <p>一人ひとりのプライバシーやプライドを傷つけないよう、言葉のかけ方や使い方、また個人情報の取扱い、記録等には注意している。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> <p>日々の生活やレクリエーション等において利用者の希望や意見、思いを大切にした支援を行っている。また行事においても利用者一人ひとりに希望を聞いて行っている。</p>	○	緊急時に対応するためにも救急救命の講習に参加して緊急時に備える。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> <p>一日の流れは、ある程度決まってきたようですが、時間に追われることなく利用者のペースで流れており、出来る限りご本人と他の利用者が共同で生活していただけるようにしています。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p> <p>朝の身支度は個々に合わせて対応し、利用者一人ひとりにあった身だしなみやおしゃれが出来るよう支援しています。理美容は、個人が望むところがあれば当園で送迎したり、ご家族が送迎し、その他の方は、訪問サービスを利用しています。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p> <p>食事の準備を一緒に行ったり食器洗い、テーブル拭きや配膳、後片付けを職員と一緒にしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在は、お酒を飲む方やタバコを吸う方はいません。飲み物やおやつは日常の会話の中から好むものを選んでいただき、食べたり飲んだりしています。また、家族の方がもちこんで自由に楽しんでいます。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄のパターンは、排泄記録表により全職員が把握し、排泄の失敗やおムツの使用を減らし、気持ちよく排泄が出来るよう支援しています。	○	安楽な排泄ができるよう適切な方法を工夫する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日行っており、入りたければ毎日でも入れますが時間帯は午後からと決まっております。希望やタイミングに合わないかもしれませんが、入浴後は気持ちが良かった、いい湯だったといってくれています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の睡眠を妨げないよう睡眠パターンを把握し生活のリズムを作っています。また、眠れない方には無理に眠っていただくことせず、話をしながら職員と過ごしたりしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事、編み物、畑作り、盆栽の水遣り、屋内外の清掃など長年培った力を発揮していただけるよう支援しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望や能力に応じて、お金を所持したり、使うことが出来るよう支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買物・ドライブ等、一人ひとりの希望に応じて外出することが出来るように支援していますが頻度は少ないと思います。外出等の際には職員と一緒に付き添っています。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	平成19年度は、デイサービスのマイクロバスを借用し江差町の海洋丸や文化施設の見学や昼食会を実施し、20年度は秋の紅葉見物を実施しました。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自分で電話をかけられない方は、職員が電話をかける支援をその都度行いご家族に連絡をとっていただいています。手紙については、いままで要望がありません。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	開設当初は面会時間が自由であったが、深夜の面会や出入りに対応が出来ず朝7時から夜9時までの面会時間としています。来客者には、気さくに挨拶をかわし、家族の方には近況を報告し、お部屋やロビーでお話出来るようにしています。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議や日々のミーティングで身体拘束への認識を高める努力を行っており、現在身体拘束はありません。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間(午後9時から翌朝7時)は防犯上鍵をかけているが、日中は出入り自由になっており、鍵はかけていない。センサーにて玄関の出入りが分るようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員はプライバシーに配慮しながら昼夜を通して入居者の所在や様子を確実に把握し、なおかつ安全の確保に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	所定の場所を決めているが、すぐに取り出せる位置にあります。職員が管理しており危険防止になっているとおもわれる。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	誤嚥、窒息に至らぬよう食事の際には同席して一緒に食事をし見守りしている。ヒヤリ、ハットについて検討し事故防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の応急処置法のマニュアルが用意されているが職員へ周知はさせているが、必ずしも緊急時に対応できるレベルにまで到達されているとは言いがたい状況にある。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防火管理者が中心となり、避難経路の確保、火災報知機の点検などを行い日々取り組んでいる。	○	避難訓練を実施する。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	新規入居の際に、リスクは生活の至る所に潜在していることを説明しています。事故はゼロではなく最小限の被害に留めることが重要と考えています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p> <p>日頃より、よく観察を行い様子を詳しく介護日誌と個別記録に記載し体調の変化や異変の発見に努めています。異変に気づいた時は、管理者へ連絡し日誌にも記録し口頭でも職員に伝達し情報を共有している。</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p> <p>病院より薬の説明書を頂き、個別台帳へ貼り付け分りやすいように綴っています。毎日薬保管カレンダーに掲示し、飲み忘れがないようにしている。服薬事には、薬の確認を行い服薬できているか確認をしています。</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p> <p>処方薬にだけ頼るのではなく、食物繊維の多い料理を提供するほか軽い運動や体操を生活の中に組み込んでいます。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p> <p>毎食後、一人ひとりの能力に応じて見守り、声がけ、介助しながら口腔ケアを行っています。</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p> <p>水分摂取量や食事を毎日記載しています。食事は見て楽しみ、食べて美味しいだけでなく同席する方や雰囲気左右されることもあり、その方に合わせた支援を行っている。</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)</p> <p>感染症マニュアルを常備し、知識と対応について学習しています。感染症の流行時には、その都度資料や勉強会を通じて理解を深められるように努めています。</p>	○	自ら感染源にならないよう心がける。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>まな板や包丁、調理器具については塩素系漂白剤で殺菌しています。また食材は毎日仕入れ賞味期限は厳守しています。</p>	○	これからも新鮮な食材を買物して毎日、手作りの食品を食卓に提供したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関周りには盆栽や季節ごとの花をプランターに植えて設置しています。ベンチやテーブルを用意し生活が垣間見えるように工夫をしています。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>明るい空間にテーブルやソファが配置され、入居者がくつろげるよう家庭的な雰囲気作りを心がけている。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>廊下の端に椅子を用意し、また居間と食堂が別になっており、気の合った者同士が過ごせるような場所が確保されている。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者の好みで部屋の飾り付けがなされ、安心して過ごせる様な場所になっている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>換気、空調は適切に行われています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや玄関、お風呂等の要所には手摺が設置されています。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	浴室やトイレが分るよう文字や矢印で掲示したり、居室には顔写真付の表札を掲示しています。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホームの周りには盆栽やプランターを置き、畑で野菜作りを楽しむことができます。花の好きな方は、毎日水遣りを日課にしています。草取りをしてくださる方もおられます。		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	1
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	1
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	1
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	1
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	1
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	1
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	1
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	1

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	2
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	2
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	1
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	1
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	1

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
出来る範囲で利用者に様々な作業をしていただき一緒に何かをすることで自信や生きがい等を見出していただく、経験談や知恵を話される入居者には、興味を持って傾聴する。日常の接し方や介助の際に入居者の方々が安全で楽しく生活を送れるように心がけています。ゆったり、のんびり、明るく入居者様を自分の家族と思って楽しく仕事をさせていただいています。